

一般質問

木原
議員

○住みたい、住み続けたいまちづくりの実態と人口減少問題について

質 合併新市の初代市長に就任以来、市民の融和と一体感の醸成に努め、政策課題に取り組まれたが、合併直後の各自自治体間の体質の違いもあり、ご苦労も多かったと思います。就任当初の思いと現在の実情をどう評価しますか。

市長 市民の負託に応えていくという強い使命感をもって今日まで取り組んできました。西九道、九電2号機の建設、企業誘致、本市の基幹産業であります農業、水産業、商業の振興による雇用の確保、そして市の活力を生み出すためのいろいろな施策に取り組み、明るいまちづくりへの展望が開けつつあるという認識をもっています。雇用の場の確保、子育てしやすい環境の整備は地道に取り組みを重ね、防災対策あるいは医療の充実確保にも取り組まなければならぬと思っています。

質 この20年社会の変貌は著しく、合併後の11年間を見ても松浦市の人口は4千395人減少し、地方創生戦略の精神と必要性は認めながらも、実現させるハードルは簡単に越えられそうにない。市長は一生を通して松

浦市に奉職なさった数少ない人材であり、任期を半年後に控え今後の松浦市政への思いを尋ねます。

市長 「住みたい・住み続けたいまち松浦」を目指して、これまでのハードを主体とした施策からソフトの施策に軸足を移す時期に来ていると思っています。まずは生活が基本であり、所得をどう上げるか。あわせて医療、福祉、教育に力を注いでいるということと多くの人に知ってもらい、希望のある、夢が持てる松浦になるよう努力しなければならぬと思っています。

○地場産業（農業の6次産業化）振興支援策について

質 これまで農家は、農業政策に関する組織的要望活動には取り組みが少なかったように思う。まして市政の軸足は外向き重視の政策展開が主であり、この辺で足元の農村の人材による自発的な発想の情熱と活力を醸成させる為の奇策を立てる事ができないか。昔ながらの農家の生産技術と潜在的伝統の伝承技法による加工技術の能力を発揮できる組織作りが出来ないか、市長の考えを尋ねます。

市長 これからの農業生産は、消費に对应できる生産の手法を持つていく必要があると認識しており、松浦の高い品質のものをどう付加価値をつけて消費につなげるか。6次産業化の新たな取り組みについて、生産者の意識を高めるため、関係者との協議の場が大事だと思っています。

一般質問

川下
議員

○福島町火葬場の今後について

質 現在の市の方針とその理由についてお尋ねします。

市民生活課長 第2次行革実施計画により、施設の維持補修に係る主な方向性は、簡易的な補修のみで施設を維持させることとし、今後大規模な補修を必要とするような状況になった場合は、地域住民に事前周知を図りながら施設の廃止を検討するとしております。なお、それまでの施設維持に関しては火葬者数の動向等を確認しながら予防保全による長寿命化を図るとしております。

質 福島町ではその地域ごとに葬儀を執り行っている所がある。また、町内の高齢化率も高まっている。そのような中、葬儀から火葬まで、お世話になった故人とお別れをできる環境を整えることも大切な住民サービスであり、行政改革の名の下に実行する内容としてはそぐわないのではないかと考える。方針から「廃止」の言葉を取っていただきたい。

市長 廃止をするということとはうたつておらず、廃止を検討するというところですので、長寿命化を図りながら運営を続けていくという方向にあることをご理解いただきたいと思います。

います。

質 今後、廃止を検討する事があった場合、決める前に地元の意見を聞くという事を今一度確認したい。

市長 福島火葬場も市民の財産でありますので、当然地域住民の皆さん方のご理解、またご協力がなければできないという考え方で今後対応したいと思っています。

○伊万里松浦病院移設について

質 市民の中には佐世保市の総合病院的なものをイメージしている方もおられる。市の持つビジョンを市報等に示すべきではないか。

健康ほけん課長 基本的には、現在の伊万里松浦病院と松浦市立中央診療所との機能に加え、医師及び医療機器を充実し、さらに救急医療と地域包括ケアを備えた病院となるものと考えており、総合病院のような高度医療への対応までは求めているところではあります。JCHO病院がどのようなものか具体的な内容がはつきりするのは、病院の申請があった時点になるかと思っており、分かり次第、情報として提供したいと考えています。

質 医師の確保は大丈夫か。

健康ほけん課長 松医会への説明会の折、全国のJCHO病院57病院、国が所管する国立病院機構、大学病院との人事配置により確保できると伺っております。